淑徳大学
SHUKUTOKU 共に歩む　これまでも　これからも

淑徳大学 埼玉キャンパス
経営学部 短期海外研修委員会

2023年度
短期海外研修
―経営学部―
シンガポールコース・ハワイコース

実施概要

経営学部の短期海外研修（シンガポールコース･ハワイコース）では、現地学習の成果を高めるべく、事前学習・事後学習をしっかり行うことで、学生の思考・行動の自立性を高めるための教育プログラムとなっています。学生は、事前学習・現地学習・事後学習を通して、様々な能力を高めることを目指します。

事前学習では、両コースとも、シンガポールとハワイの歴史・経済・文化・産業政策・観光政策・マーケット市場・観光市場や日本との関係の理解などの知識を深めた上で、各々の特徴、課題点や解決策を考えました。

事前学習を踏まえ、現地学習では、学生一人ひとりが自分の仮説を持って現地研修に臨み、それぞれの考えた内容が正しいのかについて、企業でのレクチャーや実地調査を踏まえて検証しました。

また、事後学習では現地研修で得られた調査結果を各自で解釈し、成果発表を行い、またレポートに纏めてもらいました。その成果の一部が次頁以降の学生報告となります。

シンガポールコース日程

1日目	朝	羽田空港集合・出発
	午後	シンガポール チャンギ国際空港到着
2日目	午前	マーライオン公園 マリーナベイサンズ視察 (中華料理)
	午後	ニューウオーター施設視察 ナイトサファリ
3日目	午前	JTB シンガポール支店訪問
	午後	チャイナタウン (インド料理) アルビレックス シンガポール講義
4日目	午前	リゾートワールドセントーサ視察
	午後	自主研修
	夜	チャンギ国際空港出発
5日目	朝	羽田空港到着・解散

ハワイコース日程

1日目	夜	成田空港集合・出発
		日付変更線
	午前	ホノルル国際空港到着 ホテル・ワイキキ視察
2日目	午前	ダイヤモンドヘッド
	午後	ハワイ出雲大社・ワイキキビーチ視察 ヒルトングランドバケーションクラブ訪問
3日目	午前	HIS ハワイコーポレーション訪問
	午後	ラグジュアリー - ホテル視察
4日目	午前	JTB ハワイトラベル LLC 訪問
	午後	自主研修
5日目	午前	ホノルル国際空港出発
6日目	午後	成田空港到着・解散

はじめに

2024年２月から３月にかけて、淑徳大学経営学部の短期海外研修が実施されました。新型コロナウイルスの影響で４年ぶり、８回目の実施となる今回、シンガポールコースと新設・ハワイコースの２コースが催行され、経営学部総勢55名の学生が参加しました。シンガポールコースは、経営学科27名、観光経営学科24名の学生が参加し、２月26日（月）～３月１日（金） に３泊５日の日程でシンガポールを訪れました。ハワイコースは、観光経営学科４名の学生が参加し、３月３日（日）～８日（金）に４泊６日の日程で、ハワイ・ホノルルを訪れました。

短期海外研修は、学生の将来の目標に合わせた経験学習の場として、研修課題を決め、目標意識を持って取り組むことのできるプログラムとなっています。この研修は２年次後期に履修可能な選択科目であり、現地研修（現地学習）は、２年次が終わり、３年次になる前の春休みに実施されます。残念ながら、コロナ禍で３年間実施されなかったため、今年度は２年次から４年次までの学生を対象としました。

経営学部では、この研修を通し、他国の社会や文化、宗教等を体験・学習することで、ビジネスのグローバル化に対応できるマナーや対人能力といった社会常識を身につけること、また、他国の企業・組織との交流を通して、グローバル人材に必要な知識・スキル等を認識することを研修の目的としています。

事前学習としては、日本とは異なる渡航先の法律、文化、考え方や危機管理などの確認を中心とした準備的な指導と、学生一人ひとりの自己の課題発見と現地での調査内容などを主体とした事前学習を行います。帰国後には、研修成果をグループ成果発表及びレポートとしてまとめるという事後学習を行います。事前学習・現地学習・事後学習という３段階のステップを踏むことで、短期海外研修の成果を高めることとしています。

本報告書には、帰国後に学生が研修成果をレポートとしてまとめたものの一部を掲載しています。このレポートの中では、参加学生が自ら知的好奇心と問題意識を持って研修に取り組んできた成果を書き記しております。また、成果までのプロセスの中で、自ら学ぶことによって得られる喜びや達成感、また解決策を見つけるための努力が、率直に記されています。こうした貴重な研修の成果を、本キャンパスの学生の学びの姿の一環として広く知っていただくことを願い、この短期海外研修報告書を上梓いたしました。

限られた紙幅の中、この報告書に掲載されている学生レポートは、参加学生数のほんの一部に過ぎませんが、ここで見て取れる成果は、他の全ての参加学生も共有していることを申し添えたいと思います。

なお、2023年度の短期海外研修については、経営学部ホームページでもご紹介していますので、ご覧くださいますよう、併せてお願い申し上げます。

淑徳大学 埼玉キャンパス
経営学部　短期海外研修委員会

研修の狙い

短期海外研修は、主に３つの学修成果を目的としています。

●他国の社会や文化、宗教等を体験・学習することで、ビジネスのグローバル化に対応できるマナーや対人能力といった社会常識を身につける

●他国の企業・組織との交流を通して、グローバル人材に必要な知識・スキル等を認識する

●事前学習・現地学習・事後学習を通して、社会人として必要な能力を高める

事前学習	情報収集・整理能力
現地学習	ヒアリング力、観察力、記録力
事後学習	情報比較・分析能力

研修の内容

主な訪問先と研修内容

（シンガポールコース）

2024年２月26日（月）～３月１日（金）（３泊５日）

他民族国家であり、スマートシティ先進国であるシンガポールでは、多様性や持続可能な生活環境などグローバルな課題を学ぶことができます。

経営学科では、シンガポールにおけるビジネスの特徴と課題点を、観光経営学科では、シンガポールにおける持続可能な観光のための課題点と解決策の実地調査を行いました。

●２つの統合型リゾート視察

ビジネス地区中心部に立地し、ビジネス層向けのマリーナベイサンズ、及び郊外に立地し、家族向けのリゾート・ワールド・セントーサの視察による統合型リゾートの経済効果やカーボンニュートラルの取組視察

●NEWater（下水再生水）ビジネスセンターの視察

シンガポールの水資源確保のための政策と再生処理水の生産技術と工程の視察

●現地日系企業調査

JTBシンガポール支店

JTBシンガポールの業務、訪日外国人におけるASEAN各国の特徴、シンガポールと日本の労働環境の違い

アルビレックスシンガポール

シンガポールサッカーの歴史、アルビレックス新潟のシンガポール進出、アルビレックスシンガポールの業務、海外に出ることの意義

（ハワイコース）

2024年３月３日（日）～３月８日（金）（４泊６日）

様々な民族の文化が融合して育まれてきた多様で独自の文化を持つハワイにおいて、クリーンエネルギーや地産地消など自然・文化を守り継承していくための再生型観光の課題点と解決策の実地調査を行いました。

●現地日本企業調査

日本からの観光客数・レスポンシブルツーリズム・ハワイの再生型観光政策と旅行代理店の責任と役割

①HISハワイ コーポレーション訪問、意見交換
　HIS LeaLeaラウンジ視察

②JTBハワイ トラベルLLC訪問、オフィス見学、意見交換
　ヒルトングランドバケーションズ視察

※日本からのインバウンド受け側としてのランドオペレーションの業務、およびアウトバウンド業務について状況を把握。オプショナルツアー催行におけるアフターコロナの変化などをヒアリングした。

●ラグジュアリーホテル視察

地産地消や環境保全に重点を置いたラグジュアリーサービスのホテル視察

①ハレクラニ ホテル
②シェラトン・ワイキキ・ビーチリゾート
③ロイヤルハワイアン　ラグジュアリーコレクションリゾート（ピンクパレス）

※ミドルクラスのホテル（例：ヒルトン ガーデンイン ワイキキビーチ、アウトリガー・ワイキキビーチホテル等）との比較

●再生型観光地視察

再生型観光を推進するため。オーバーツーリズムの解消と自然保護の対処法の視察

ダイヤモンドヘッド、ワイキキビーチ、ロイヤルハワイアンセンター、ワイキキトロリー（Hi-bus）、ワイキキ・ビーチ・ウォーク

● 日系移民の歴史学習

様々な人種・民族の多様性で構成されているハワイにおける日系移民の歴史についての学習

ハワイ出雲大社、ダニエル・K・イノウエ空港

シンガポールで広がる視野

経営学部経営学科　2年　M.A　K.Y

1．短期海外研修の履修の理由

私たちが短期海外研修を履修した主な理由は、世界の多様な文化や社会性に触れ、自分たちの視野を広げる機会を得たいと思ったからである。元々海外に興味があったので、これは絶好の機会だと考えた。シンガポールについて事前に調査することで、私たちの価値観に対する固定概念が覆され、現地での実際の体験を通じて、より強い刺激を受け、好奇心が育まれると考える。

また、多言語国家であるシンガポールで現地の人々と交流することは、私たちのコミュニケーション能力を向上させるに違いないと考えた。

2．グループでの学科課題

学科課題のテーマである「シンガポールのビジネスにおける競争優位性と課題」について、事前学習の中で私たちは以下の３点を取り上げた。

まずシンガポールの政治的な特徴である「変化の速い法律への適応が必要」という点である。これは競争優位性を生む一方で、シンガポールでビジネスを行う上での課題ともいえる。シンガポールは、一院制かつ一党独裁政治のため、政治の動きが速く常に合理的な政治を求め法律の制定・改善をしている。そのため法が律に合わせて、ビジネスも変化させていく必要がある。

次に、「徴兵制」を挙げる。シンガポールの男性は18歳になったときに２年間の徴兵義務があり、徴兵終了後も10年～13年間予備軍に入る。働き盛りの成人男性が２年間軍隊に行かなければならないというという点で経済的な損失が生じている。

最後にこれはシンガポールに限らずほぼ全ての先進国でも同様だが、「少子高齢化」により社会保障や年金、定年延長などの問題を抱えている。

実際に現地で見てきた考察としては、１つ目の「変化の速い法律への適応が必要」に関しては、ガイドの方の話や街中を見るだけでもシンガポール国内は非常に規制が多い国で、それが合理的かつスピーディに制定されていることを感じた。街中には禁止マークの看板や警告は多く、警察がパトロールする様子もあり、法律に基づいて徹底した街づくりが行われていることが分かった。しかしその一方で、シンガポールは「ポイ捨て禁止」「横断歩道以外での横断禁止」の規則と罰則があるにも関わらず、街中を見てみると路上にゴミを見つけたり横断歩道以外のところを横断しようとしている人を見る機会は少なくなく、人を罰則でコントロールすることの難しさを感じた。

また「徴兵制」に関しては、そういった制度があるということを学んだ上での研修だったため、成人男性が少なく感じた。また現地の人とコミュニケーションを取りながら色々会話してみたが、特に徴兵制を言及している様子がないのが意外だった。

最後に「少子高齢化」に関しては、フードコートやお店ではあまり若い人は見かけず、40代や50代が多い印象だった。宿泊先のホテル近くのスーパーでは、少子高齢化に伴う人材不足の対策としてセルフレジが導入されていたり、フードコートではモバイルオーダーや券売機があったりと、日本同様にITシステムの導入による人員削減が進んでいることを感じた。また、日本のUSJと比べてUSS（ユニバーサル・スタジオ・シンガポール）にはキャストが少なく、屋台やフードコートでも全体的に従業員が少ないように感じた。

3．現地学習の成果

シンガポールでの現地学習を行い、１番の成果として得られたことは、実際に「実際に海外の人が話す英語表現や発音に触れることができる」という点である。確かに、英語力の向上は日本国内でも可能ではあるが、英語はコミュニケーションの手段であり、日常的に使用する言い回しは時代や国によって異なるし、現地での会話を通じてしか得られない知識があることを、この研修で強く実感した。日本語にも日本人特有の表現や省略された言葉が存在するように、シンガポールにおいても、学校教育では触れることのない「現地特有の文法やコミュニケーションスタイル」があることを学んだ。

また、事前学習で得た知識を超える多様性を現地で実感した。アラブストリート、チャイナタウン、リトルインディアなど、各地区はまるで異国のように独自の雰囲気を持っており、建築様式、空気感、人々の服装、使用言語、販売されている食品に顕著な違いがあった。さらに、モスクや教会などの宗教施設が街中に多く存在し、様々な宗教を信仰する人々が共存している様子を目の当たりにした。

4．後輩へ履修を勧める理由

私が短期海外研修を推奨する理由は３つある。まず、英語への関心が高まった。シンガポールでの研修中、何度も英語をもっと勉強しておけばよかったと感じる瞬間があった。日常の買い物では問題なく会話ができたが、タクシーの利用や複雑な注文が必要な飲食店で、理解しづらい単語や文法に直面した際、もっと多くの単語や文法を学んで、次回海外を訪れた時にはスムーズにコミュニケーションを取りたいと強く感じた。この経験は、英語学習への意欲を以前よりも一層強めてくれた。

第２に、異なる文化や価値観に触れることができた。国が変われば、日本の常識が通用しないことを改めて実感した。様々な国籍や人種、宗教、言語を持つ人々との交流を通じて、多くの価値観に触れ、知らなかった文化を学ぶことができた。

第３に、行動力や自信がつき、自分自身の新たな長所に気づくことができた。異文化の中で過ごすことで、多くの経験を積むことができた。海外研修は常に良いことばかりではなく戸惑うことも多かったが、失敗から学び、困難に立ち向かい解決策を見つけることで、自己成長に繋がったと感じる。言葉が通じないことや思い通りに行動できないことがあっても、諦めずに試行錯誤し続けることができるという、自分の知らなかった長所を発見することができた。

これらの理由から、私たちは後輩たちに短期海外研修の履修を強く勧める。

英語学習意欲の向上になったシンガポール

経営学部観光経営学科　2年　I.I　S.K

シンガポール研修で得た知見について

1．短期海外研修の履修の理由

私たちが短期海外研修を履修した理由は、大きく分けて３つある。

１つ目は、ゼミでTOEICの受験を薦められたことである。なぜなら、私たちは英語検定しか受験したことのなかったが、ゼミの先生のTOEIC受験の薦めからこの研修の物語は始まった。先生のTOEIC講座を何度か受講し、自分たちでも勉強し、TOEICを受験した。しかし、結果は自分たちとしては不満足な点数となってしまった。海外で自分の英語力がどのくらいなのかを知り、英語力を向上させたいと身をもって感じたからである。

２つ目は、シンガポールへの興味、関心が強くあったからである。それは、小学生の頃から教科書で見ていたマーライオンや、マリーナベイサンズへの憧れが最も強くあることである。また、初の海外というので不安もあったが、目で実際に見たいという気持ちがあったため、受講を試みるきっかけとなった。

３つ目は、スケジュール内のオプショナルツアーであるユニバーサル・スタジオ・シンガポールである。なぜなら、テーマパークに興味があり、日本だけでなく、海外のテーマパークのホスピタリティやユニバーサルデザインがどのくらいのレベルなのかと興味があったため、英語を学ぶ研修にもテーマパークが組まれているのならと、受講したいと思う大きなきっかけになった。

2．グループでの学科課題

①事前学習

まず初めに、シンガポールの歴史は、英国の植民地となり、後に自治権を取得後、マレーシアの１州となったが、分離しシンガポール共和国として独立した。この歴史により、文化が多様であり人口の78％が中華系、14％がマレー系、９％がインド系の異なる文化が集まる。また、それぞれの民族や宗教にまつわるお祭りが開催される。例としてチャイニーズ・イヤーなどが挙げられる。次に、シンガポールの経済についてであるが、この国は世界的にも非常に強力な経済を持つ国の１つである。その概要としては、外国投資の受け入れや、知識、イノベーション重視、多様な産業の育成などが挙げられる。また、世界各地に向けてアンテナを張り、的確にニーズを把握し対応している。それらにより、シンガポールの来訪者の８割がアジア地域であり、前年比10％以上増加したという。これには、ターゲット国を徹底的に調査し、ニーズに沿ったプロモーションを展開しているといえる。最後に、観光政策であるが、シンガポールでは、2022年８月29日に国境を完全にオープンさせ、海外市場に向けた旅客誘致が本格化した。また、2022年の海外訪問客数は400－600万人が目標であったが、それを上回る630万人という数値を叩き出した。そして、観光市場としては、個人旅行での来客や、リピート客が多く、滞在日数も長いという。

②現地での考察、分析

まず初めに、私たちが現地で１番大きく感じたのは、事前学習でも大きく分析していた「多民族」なことである。それは、現地に着くとすぐに日本ではあり得ないほど様々な異なる文化の人々が平和に暮らしている印象が強くあった。また、インドや中華、アラブなどのそれぞれの繁華街があり、各国の特徴が大きく出ていた。しかし、言語が統一されていて基本は英語のため、シンガポール国内の人々は言語の壁が少ないと改めて実感した。そして、現地のガイドの方から聞いた話によると、シンガポールでは、幼少期から「中国語」と「英語」の２カ国語を学ぶ為、大半のシンガポール在住者は２つの言語を使って会話しているという。

次に、シンガポールは綺麗な街という印象が強く残った。そこには、多くの規制やルールがあるからという大きな理由がある。また、防犯カメラの数が多く、高速道路にも駅にもカメラが設置されており、罰金制度が多くある。そして、駅にはセキュリティも常におり、犯罪防止制度がたくさんなされている。現地の人に聞いた話であるが、罰金を払う専用のATMがあり、期限内に出さないと逮捕されてしまうという。これらの規制があってこそ、シンガポールの今の綺麗さが維持できるのである。

最後に、現地の気候についてである。シンガポールの気候は変化が激しく、いきなり雨が降り出し、天気予報は当てにならないという。実際に、現地に着く前に調べた天気予報では全ての日が雷雨の予定であったが、全ての日が快晴であり、通り雨のような日もあったが、すぐに止むことが印象的であった。また、この国はとても住みやすい街であり、地震が少ないことからビルが多いという。しかし、小さな国であっても、移動手段として車は高いと、富裕層のみが所持しており、基本はバスや電車で移動するのが主流であるという。これらによってシンガポールは、異国を感じることができ、規制を守りながら綺麗な環境で気候も過ごしやすい国であるといえる。

3．現地学習の成果・所感

現地学習の成果として、シンガポールは多民族の国のため、自分が声を掛ける側ではなく掛けられる側となり、道を案内するなど、現地の人との交流が多く英語での簡単な対話の受け答えができるようになったと感じた。また、シンガポールのJTBの会社の方から聞いた話で、シンガポール独特の英語があることや、他国の人と共に働き、電話相手の母国語に合わせて対話のできる社員が電話対応をしていると聞き、グローバルな世界に身をもって体験できたと思う。そして、現地で働いている人から、「海外に出て視野を拡げてみて」と実際に言われてから更に英語への学習意欲が向上したため、今後は、積極的に英語に触れたいと思う。

4．後輩へ履修を勧める理由

私たちは、自分の英語力と旅行気分の気持ちで履修しましたが、現地に行ってみて、本当に「この英語の意味分かったらもっとよかったな」と思わされることがたくさんあった。加えて、現地に行ってみて色々な人と触れ合うことで、英語への学習意欲が向上し、苦手意識が減って海外への関心が湧いたと思った。また、JTBの現地で働いている方や、気さくなガイドさんのお話もとても教訓になった。更に本当に心から楽しめる場所がたくさんあって、体験型施設もあるから履修をお勧めしたい。

新しい自分を発見できたシンガポール

経営学部観光経営学科　2年　R．T

1．短期海外研修の履修理由

私が短期海外研修を履修した理由は、これまで人生で海外に行ったことがなかったため、海外に行き日本とは異なる地域での環境や文化に触れ、異文化への理解を深めたかったからである。また、海外に行くことによって今後と自分の人生の選択肢を一つでも増やせると感じたからである。さらにその土地にしかないものを経験、体験することによって、自分の可能性を広げる機会であり、自分自身を成長できると考えたからである。

2．グループでの学科課題

・多文化な労働力

事前学習→シンガポールは移民や、外国人労働者が増加しており、多くの文化の人がシンガポールで働いており、異文化への理解に適当していく必要がある。

現地での考察・分析→実際、非常に多文化的な労働力を持っているように感じた。お店の店員や、タクシードライバーもシンガポール人だけでなく、多くの外国人労働者が働いていた。また、街中でもアラブストリートやチャイナタウンがあることから国全体で多文化を理解しあっていることが感じ取れた。これらによって、多くの文化や顧客のニーズを理解しやすくなり、国の活性化につながると考えた。

・観光地のオーバーツーリズム

事前学習→シンガポールは国が小さいため、セントーサ島やマリーナベイエリアなど一部の観光地に人が集中しやすく、オーバーツーリズムの影響を受ける。

現地での考察・分析→実際にマーライオンやセントーサ島を訪れてみて、観光客の多さを感じた。しかし、チャイナタウンやブギスストリートなどの現地に行ってから知ることができた観光地なども多くあり、一部に集中しやすいとは感じにくかった。多くの素晴らしい観光地があり、管理や警備がしっかりとされて観光客を受け入れる準備が整っていると考えられる。

・物価や生活費、人件費が高い

事前学習→住宅や教育、医療コストが上昇しており、都市化と経済発展の影響が及ぼしている。また、人件費も他のアジアに比べて高く、これは高い生活水準やサービスに反映されている。

現地での考察・分析→実際に現地に訪れて、人件費は肌で感じることはないが、生活費などの物価の高さは感じた。コンビニだと、水で300円弱、ランチも2000円あたりが相場であり、生活費など多くかかると感じた。しかしその一方で、タクシーや電車などの公共交通機関は、日本より安い部分もあり、全部が高いと言うわけでもなかった。シンガポールに訪れ、物価が高いことから、経済が健全でありシンガポールの治安の良さがあると考えられた。

3．現地学習の成果

現地学習の成果としては、多くの刺激を受け人生の選択肢が増えた。シンガポールに訪れたことによって、日本に留まっているだけでは気づくことができなかった言語の重要性を改めて感じることができた。また、自己発見と成長をすることができた。

現地に行って、何がどこにあるかもわからず、また日本語も通じない中コミュニケーションをどう取ればいいのか、相手にどうすれば伝わるのかを考えていく中で、言語の重要性を感じることができた。自分から行動に出ないと何も伝わらない中で、相手とコミュニケーションを取るのは日本ではないことなので、いい経験になり今後に必ず役立つ

と感じた。日常から離れた環境に身を置くことで、普段コミュニケーションとることが好きな私でも、言語が通じないと戸惑うこともあり、自分の弱みを理解することができた。それらの問題に直面しどのようにすれば伝わるかを考えることによって、自己効力感や問題解決力などが向上すると考えられる。今までなかったような経験は自信の向上にも繋がり良い機会になった。

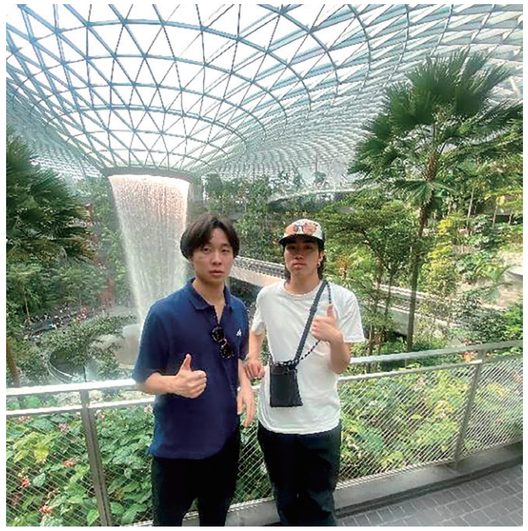
このように、日本から出て世界を知ることで多くの面で人生の選択肢を広げることができる。新しい文化、言語、価値観を体験することで、自己理解を深め成長し、新たな視点を持つことができる。シンガポールを経験したことよって今までは日本だけだった選択肢が増えた。

4．現地学習の所感

シンガポールに行き感じたことは、行く前の印象として法律が厳しく罰金が多くあるため、警戒している部分があった。しかし現地に行くと、街中はポイ捨てや、路上喫煙している人を見かけることが多々あり、日本で言う赤信号を渡るとダメと言われているのと同じような感覚なのではと感じた。また、現地人はとてもフレンドリーで、電車内で対面の席になっただけで会話が広がったり、タクシードライバーも多くの観光地を教えてくれたり、シンガポールはみんな親切で優しい国であると感じた。さらに、現地は想像以上に高層ビルが多く、発展していると感じた。気候は日本の夏と同じくらいかと思っていたが、急な雨があるため雨が上がった後はとても蒸し暑かった。

5．後輩へ履修を勧める理由

私が履修を勧める理由は現地に行くことによって、自分自身が成長でき自己発見につながるからである。未知の環境に自分を置くことによって自分の能力を知ることができ、また何か問題に直面した時に解決しようと、自己の限界を試し新しい自分を発見することができる。海外に行くことによって自分の柔軟性や適応力なども全て感じることができ、心身ともに成長することができるため、履修を勧める。



グローバル志向への一歩：シンガポールでの学びがもたらした変化

経営学部経営学科　2年　T.H　S.S

1．海外研修の履修の理由

授業の一環として海外に行って学ぶという短期海外研修は、私達にとってとても魅力的な授業だった。いずれ海外で働くことも視野に就職活動を進めていきたいと考えており、実際に海外に行ってビジネスを学ぶ機会は貴重な体験になると考えた。経営学部の講義形式の他の授業でも海外のビジネスの事例を取り上げて学ぶことはあるが、そういった事例の多くは欧米のもので、ここ数十年で急速に発展したシンガポールではどんなものなのか自分の目で見たいと思う。また、事前学習としてシンガポールについて調べて仮説を立てた上で渡航するという点で、友人同士で行く海外旅行とは全く異なる体験になる大きな学びになると思い、履修を決めた。

2．学科課題

事前学習

学科別課題では、「シンガポールにおけるビジネスの特徴と課題点を考える」というテーマが提示された。私達のグループでは、ビジネスの特徴として①シンガポールは東南アジアにおける貿易拠点のハブとして機能している、②法人税が世界的に低く、経済状況が安定しているため、海外企業が事業会社を進出しているという２点を挙げた。

まず１つ目に関して、シンガポール周辺の海は島々に囲まれており、波が荒れることが無いためタンカーなどの大型船舶が安全に航行出来たり、東西南北に航路が広がっていることが理由であることが分かった。

そして２つ目について、法人税が低いことによって、納税後に企業に残る利益が増え再投資や・給料の増額・新規事業の展開・技術への投資など自社の成長に繋げることが出来ることが分かった。

特にこの２つ目について、実際にシンガポールの街並みを歩きながら、どれくらい色々な国の企業がシンガポールに進出しているのか、どういった国の企業がシンガポールに進出しているのか見ていきたいと考えた。

3．現地での考察・分析

マリーナ・ベイサンズの視察やオーチャード付近のショッピングモールを歩きながら見ていてまず感じたのは、特にハイブランドに関しては日本のショッピングモールと入っている店舗が似ているという点である。やはりハイブランドに関して言うと、もともとイタリアやフランスなど欧米の老舗が多く、そういったブランドが進出しているという点では日本もシンガポールも近いと感じた。それに加えて肌で感じたのは、時計を扱う店の多さである。特に高級腕時計を扱う店の割合が多く、それには何が影響しているのか、例えばシンガポール人の特徴なのか、それとも経済発展が著しい国の特徴なのかといった理由について、今後機会があれば調べてみたい。

一方で、もう少しリーズナブルな店が並ぶVivocity等では、スイスのインテリアショップ、アメリカやフランスの化粧品店、韓国やインドの食料品店など、確かに色々な国の店舗が並んでいた。そしてその中でも特に驚いたのが日本に関連する店舗の数である。日本食を取り扱う飲食店だけでなく、無印良品やシャトレーゼ、DAISO、ユニクロ、QBハウス、メガネの田中など普段日本でも見かけるお店を多数見かけた。事前学習で調べた通り、多くの国がシンガポールに進出していることを肌で感じたが、その「多くの国」の中に日本も含まれるというのは追加で発見できた知識である。

4．現地での所感

現地では、JTBシンガポール支店訪問をしたのだが、そのオフィスで色々な国の人が色々な言語で会話している様子が新鮮だった。シンガポールは多様な人種の人が住んでいるということは事前に知っていたが、それでも実際に自分の目で見たときのインパクトはとても大きかった。また、公用語が４つあり、聞こえてくる言語も一つではないのも印象的だった。特に現地のガイドの方は、私たちに日本語で説明した次の瞬間には別の人とマレー語で会話し、そして次の瞬間には英語で会話をしており、今後海外で働く上で英語力が必要になるだろうということは感じていたが、決してそこがゴールではないということを、身をもって感じた。

5．履修を勧める理由

私が履修を勧める理由としては、以下の２つを挙げる。１つ目は、学校や旅行会社、保険会社などの手厚いサポートである。現地に行く前には、事前の研修でその国に行く上で気を付けなければいけないこと（マナーや法律に関する日本との違い）、入国・出国に関する手続き、トラブル等の緊急時での連絡窓口など丁寧に教えてもらえるので、海外に一度も行ったことがない人でも、安心して行くことが出来る。そういった事前のサポートがしっかりあった上で海外に行くので、個人で海外に行くより、より安心感がある。治安が良いとされている国でも犯罪がゼロというわけでは無いし、どんなリスクがあるのか知識を持つことは重要だ。その点、授業内でもフォローがあったり、先生方に個別に気になったときに質問するという方法でも疑問を解消することができたので海外経験が少ない私達にはありがたかった。

加えて、自身の成長として視野が広がったことを挙げる。日本から出なくても生活はできるし働くこともできる。ただその一方で、例えば「時間に正確である」こととか「勤勉である」といった「普通の日本人」としての特徴も、海外に出れば強みになるかもしれないと考えると、海外で働くことに目を向ければ自分の人生にはもっと様々な選択肢があるのかもしれないと考えられるようになった。そうやって考える中で、もっと英語力を身に付けたいと思い英語の勉強を再開したり、テレビを見ていても今まであまり気に留めていなかった海外のニュースを注意してみるようになり、自分の中にも変化があり、そういった意味での成長も感じた。

ハワイ滞在からの洞察と成長

経営学部観光経営学科　3年　Y.O

1．短期海外研修を履修した理由

短期海外研修を履修した理由は、異なる国や地域の社会や文化を直接体験し、理解することで、自身の視野を広げ、多様性を尊重し適応力を養いたかったからである。他国での生活やビジネスのやり方を学ぶことで、自らの考え方や行動が豊かさを持つようになり、新たな発見や学びが得たいと考えていた。また、他国の企業や組織との交流を通じて、国際的なビジネス環境におけるトレンドや成功の秘訣を学び、それを自身のキャリアやビジネス展開に活かしたかった。この研修を通じて、ただ知識を得るだけでなく、実践的なスキルや洞察力を身につけ、将来のキャリアに活かすことができると期待していた。

2．自由視察で感じたこと

ハワイの自由視察において、日本とハワイのサービス文化の対比について深く考察する機会があった。日本では、サービス業界においてマニュアルに従った丁寧な対応と、それに裏打ちされた繊細な思いやりが一般的である。一方で、ハワイでは現地の人々が持つ温かい心遣いが、サービス提供の根底に流れているように感じられた。彼らの心からの思いやりが、単なるサービス以上の価値を提供しているように思えた。

さらに、ハワイ滞在中に注目したのは、スマートフォンの利用の違いである。日本では、歩きながらスマホを操作する光景や、電車内でのスマホ利用が当たり前となっている。しかし、ハワイではそのような光景をほとんど目にしなかった。現地の人々は、待ち時間や移動中にスマホを手にするのではなく、仲間との会話や周囲の景色を楽しんでいた。このことは、ハワイの人々がテクノロジーに頼らずに、より現実の人間関係や環境に意識を向けて生活していることを示唆している。その結果、彼らのコミュニケーションスキルや情報収集の方法が異なるアプローチを取っているように感じられた。これらの洞察から、異なる文化の間での生活様式や価値観の違いについて深く考える機会を得た。また、テクノロジーの普及が社会に与える影響についてもより深く理解することができた。

3．チップ文化について

ハワイ滞在中に直面した文化の１つが、チップ文化である。日本とは異なり、アメリカではサービスに対してチップを支払うことが一般的だ。初めての経験で戸惑いもあったが、その背後にある本質を考えると、チップがサービスへの評価を反映しているという点が明確に感じられた。チップの金額がサービスへの感謝や評価を示すものであり、少額のチップでは従業員の努力や働きが不当に評価される可能性もある。このことは、従業員の働きがいやモチベーションにも直結していることを考えさせられた。

ハワイの現地の方々からサービスを受ける中で、チップを支払うことの意義を強く感じた。彼らは常に笑顔で親切に接してくれるだけでなく、その裏には彼らの誇りと仕事への情熱が感じられた。そのような素晴らしいサービスに対しては、適切なチップを支払うことが当然であり、彼らの努力と尽力を認める方法の１つであると考えた。

チップ文化を通じて、単なる支払い以上の意味があることに気付かされた。それは、相手への尊重や感謝を示す手段であり、その価値は単なる金額以上に重要であると感じた。

4．現地学習の成果・所感

現地学習の成果として、まずプログラムの充実度である。少人数での実行に対して、柔軟な対応をしていただき、臨機応変に現地での学習が進められた。特に、個々のニーズや興味に合わせた内容が提供されたことは大変有り難かった。その結果、現地での学習の質と効果が高まったと感じる。

また、現地に身を置くことで、海外の文化や環境を肌で感じることができた。言葉だけでなく、街の雰囲気や人々の振る舞い、食文化なども体験し、新たな視点を得ることができた。さらに、自ら積極的にコミュニケーションを取ることで、英語力だけでなくコミュニケーション能力も向上した。

一方で、自分の英語力の不足を痛感した。日常で使える英語力の重要性を再認識し、今後の学習の方針を見直す必要があると感じた。今回の経験を通じて、自身の成長や課題を明確にし、今後の学びやキャリアに活かしていきたいと感じた。

5．後輩へ履修を勧める理由

この研修では先生と共に現地を学生の視点で探索する貴重な機会だと感じた。その中で、現地の文化や社会に触れ、新たな視点や理解を深めることができる。また、この経験は学びに直結し、将来のキャリアや人生において大きな影響を与えると感じた。また、異文化交流や現地での活動は、大学生活の中での貴重な思い出となるだろう。最後に、ひとつアドバイスとして英語力を身につけてから参加することで、より深く現地の人々と交流し、新たな発見や経験を得ることができると感じた。このような様々な理由から、後輩には積極的に短期海外研修に参加してほしいと願う。

人情の厚いハワイの再生型観光

経営学部観光経営学科　3年　Ａ．Ｍ　　Ｍ．Ｍ

１．はじめに

短期海外研修ハワイコースには、日本とは違うハワイの雰囲気や文化、そして、観光地として絶大な人気を誇るハワイの観光の現状について学ぶために、履修した。本レポートでは、グループでの学科課題である「ハワイにおける再生型観光のための課題点と解決策を考える」についての考察・分析を軸として、実際にハワイに足を運んで感じたこと、学んだことについて記す。

２．事前学習

ハワイの再生型観光のための課題点として、環境への影響、文化の希薄化、地元経済への不均衡の３つが挙げられる。私たちは、これらの課題に対してそれぞれ解決策を考えた。

１つめの環境への影響は、ハワイの美しい自然環境が観光の過剰な影響を受け、生態系や景観に悪影響を及ぼしていることである。これに対する解決策は、環境への持続可能なアプローチである。これには環境への影響を最小限に抑えつつ、自然保護地域でのエコツアーやアクティビティの開発を奨励するエコツーリズムの促進と、環境に配慮したホテルやツアー事業者に対して認証を与え、持続可能な観光の推進を図るグリーン認証制度の導入が挙げられる。

２つめの文化の希薄化は、観光の過度な発展が地元の伝統や文化を脅かし、希薄化させていることである。これに対する解決策は、文化の保護と振興である。これには、地元の住民が観光に参加し、自らの文化や伝統を紹介するプログラムを推進する地元コミュニティ参加型のプログラムと、歴史的な建造物や文化的な景観の保護を強化し、観光開発との調和を図る文化遺産の保護が挙げられる。

３つめの地元経済への不均衡は、観光業が主要な収入源であるが、その恩恵が地元コミュニティ全体に適切に行き渡っていないということである。これに対する解決策は、地元経済への均等な還元である。これには、地元の小規模な企業や農業をサポートし、観光業からの利益を地元に還元する地元企業への支援と、地元住民に対して、観光関連のスキルや職業訓練プログラムを提供し、地元雇用の機会を増やし、恩恵を全体に行き渡らせる教育とスキルの向上が挙げられる。

３．現地での考察・分析

ハワイで再生型観光とは、新しい持続可能な観光と定義されていて、滞在地を滞在する前よりも良くして離れる、旅行者が地域に入り込むことで意義深く豊かな観光体験を得る、住民と旅行者が良い関係を築く機会となる、という３つの要素から構成される。

ハワイの主要観光地であるダイヤモンドヘッドは、新型コロナウイルスの流行以降、混雑を避けるため、そして、再生型観光を進め自然を維持するために人数制限を設けており、事前予約が必要となっている。

また、ハワイでは、ゴミ箱が街中に設置されていて、ゴミが出てもすぐに捨てることができるため、ポイ捨てなどもなく綺麗な街並みが保たれていた。また、エコバッグがない場合の買い物袋が、日本だとビニール袋や紙袋が多いのに対して、ハワイでは、すぐに捨てずに長く使える、布製のリユースバッグが多かった。このように、環境への配慮が地域全体で行われていて、個々の意識も高いように感じられた。

他にも、ハワイには穏やかで優しく、つたない英語でも一生懸命聞き取ろうとしてくれる人が多く、住民側も旅行者とのつながりを大事にしていた。

４．現地での自由行動で印象的だったこと

最も印象に残っているのは、ダイヤモンドヘッドである。ハワイを代表する観光スポットであり、一度は行ってみたいと思い登ることを決意した。登り始めると想像していた

以上に過酷で本格的な登山だったため、頂上までたどり着けるか不安だったが、汗をかきながらも頂上に到達したときの達成感と、壮大な景色の美しさは格別で、忘れられないものになった。

また、３月５日に、HISハワイの企業訪問とホテルの視察を行った。HISハワイの企業訪問では、コロナ前後での変化や、他社との差別化について伺い、国際情勢や為替、テクノロジーによって観光は大きく変わるということ、そして、時代と共に目指す目標もライバルも変化するということを学んだ。ホテルの視察では、ハレクラニ、シェラトンホテル、ロイヤルハワイアンホテルに足を運び、日本のホテルとは一味違う開放感のある作りになっていた。

他にも、ワイキキビーチやアラモアナビーチパークでのサンセット、ハワイ出雲大社、カメハメハ大王像、アラモアナセンター、グルメではハンバーガー、ガーリックシュリンプ、ロコモコ、アサイーボウル、マラサダ、モーニングなど、ハワイならではのものを堪能し、充実した４泊６日になった。

５．おわりに

短期海外研修ハワイコースでは、企業訪問やホテルの視察を通して、ハワイならではの魅力や課題を学ぶことができた。また、本や画面越しで見ていた観光地やホテル、グルメなどを実際に見て五感で感じ、楽しく学ぶことができる素晴らしい機会だった。実際に足を運ぶことで感じて吸収できることや学びになることがたくさんあるため、少しでも興味がある人には是非履修して欲しいと思った。